

ASAOKURA

小中高生のための

税友あさくら

甘木朝倉地区税務連絡協議会

第64号

令和6年
12月



小学生の税に関する
絵はがきコンクール

第17回 優秀作品 **最優秀賞**



法人会長賞



大福小学校 6年
藤田 志帆 さん



※この作品は令和6年12月の受賞作品です。



法人会女性部会長賞



東峰小学校 6年
梶原 茉白 さん



甘木税務署長賞



馬田小学校 6年
伴藤 莉央 さん

高校生の優秀作文

★甘木税務署長賞

「高校生になって感じた「税金」のありがたさ」

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 矢野 優希

★福岡県久留米県税事務所長賞

「税金と医療費の関わり」

福岡県立 朝倉光陽高等学校
一年 井出 航太郎

「税金と私達の暮らし」

福岡県立 朝倉光陽高等学校
一年 時津 遥

★朝倉市長賞

「税への偏見や見方を変える」

福岡県立 朝倉東高等学校
一年 小島 愛織

中学生の優秀作文

★福岡県教育委員会賞

「平和への道しるべ」

筑前町立 夜須中学校
三年 福村 矩理

★福岡県納税貯蓄組合連合会会長賞

「暮らしを支える税金」

筑前町立 三輪中学校
二年 川波 柚花

★甘木税務署長賞

「税金がなくなってしまうたら・・・」

朝倉市立 甘木中学校
三年 井上 愛結

「税とともに未来へ」

朝倉市立 杷木中学校
三年 養父 彩予

★福岡県久留米県税事務所長賞

「税金でつなぐ未来」

朝倉市立 甘木中学校
三年 秋永 茉莉愛

★甘木朝倉地区税務連絡協議会会長賞

「税金は暮らしを支える大きな根っこ」

朝倉市立 秋月中学校
三年 舟木 雪晶

★公益社団法人 甘木朝倉法人会会長賞

「税金がある意味を考え直して」

朝倉市立 南陵中学校
三年 渡辺 加彬

★朝倉市長賞

「税金と私たちの暮らし」

朝倉市立 比良松中学校
三年 岩方 優

★筑前町長賞

「税金」

筑前町立 三輪中学校
一年 米倉 綺優

★東峰村長賞

「私たちの暮らしと税金」

東峰村立 東峰学園
九年 肥後 桃子



* 高校生の作文

甘木税務署管内の高校より、二六九編の応募があり、その中から六編の作品が入選しました。

* 中学生の作文

甘木税務署管内の中学校より、五九編の応募があり、その中から十編の作品が入選しました。

高校生の優秀作文

★甘木税務署長賞

福岡県立 朝倉東高等学校

一年 矢野 優希

「高校生になって感じた「税金」のありがたさ」

皆さんは「税金」がどのように使われ、どのような役割をもっているか知っていますか。税金とは、年金・医療などの社会保障・水道や道路などの社会資本整備・教育といった公的サービスを運営するための費用を賄うものです。私たちが納めた税金は国民の健康で豊かな生活を実現するために、国や地方公共団体が行う活動の財源となっています。

今年の春、私は高校生になり、税金のありがたさをとっても実感したことがあります。小学校一年生から中学校三年生まではあたりまえのようにもらっていた教科書が、高校生になると自分

で教科書を買わなければならなくなりました。

「教科書ってこんなに高いんだ」と、私は思わず口に出してしまいました。今まで税金によって無償で貰っていたことが「とてもありがたいな」と思いました。

ところで、「無料」と「無償」の違いが分かりますか。「無料」と「無償」は、共に似たような言葉です。しかし、意味は少し違います。無料とは、料金を払う必要がないという意味の言葉で、簡単に言えば「ただ」という意味合いになります。一方で、無償とは、報酬のないことという意味の言葉で、ものやサービ

スの提供に対し、代価を求めないことです。

私たちが小学一年生から中学三年生までの九年間、学年が変わるごとに教科書が配布されていたのは決してあたりまえのことではありません。教科書が無償で配布されているのは「税金」というものを一人一人が納めているからです。そして、教科書が無償で配布されるようになるまでに、いろいろな人たちが「すべての子供たちが安心して学習してほしい」という思いから運動を起こすなど、たくさんの方々があつたと思います。税金というものがあつた、あたりまえのように学校に通えている私たち、中学三年生まで毎年無償で教科書をもたらえる私たちは、とても幸せなのだと思えます。

今まで、全ての教科書の裏側に書いてあった「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」という文。高校生になった私の教科書には書

いてありませんが、それは、無償でもらえた教科書ではないからだと思います。

もしも税金がなければ、教科書が無償で支給されなくなるだけでなく、個人の負担も大きくなり、道路や公共施設の建設や整備も行いうことができません。高校生になって改めて感じた税金のありがたさ。税金があるから今の私たちの生活は成り立っています。国民全員のために使われる税金の大切さをもっと理解しなければならぬと思いました。



★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉光陽高等学校

一年 井出 航太郎

「税金と医療費の関わり」

僕はこの作文を書くにあたって、まず税金について辞書で調べてみました。「国や市町村に対して、納めるお金」という意味でした。さらに税金にはどのような種類があるか調べてみました。所得税、法人税、相続税、消費税、住民税、固定資産税など多くの種類の税金がありました。

次に、国民が納めた税金はどのように使われるのかを考えました。調べてみると、警察署や公園、病院などに使われていて、他にも自分が毎日通っている学校や、机や授業で使われる道具などにも使われており、自分の知らないことが多くて驚きました。

僕が小さい時に、病気になるって病院に行った時、母が「あなたは子供だから病院代

はかからないよ」と言っていたのを思い出しました。僕は小さかったので全く意味がわからず、病院が治療費を無料にしてくれているのかなあ」と思っていました。ですがそれも税金で賄われていることを知りました。また、僕たちが赤ちゃんの頃に受けた予防接種も無料だったと母から聞きました。僕たちは生まれた時から税金に関わっていたことを知りました。

現在、日本の医療制度にはとても大きな課題があります。それは収入と支出のバランスが崩れ始めていることです。バランスが崩れた理由は、少子高齢化が大きな要因と言われています。少子化により、健康保険料を納める働き手が少なくなる一方で、高齢にな

るほど医療機関を利用する機会が増えているのです。

僕には祖母が2人います。二人共もう高齢です。体調が悪くなったり病気になるったりしたらすぐに病院に行って、治療を受けて早く元気になって長生きしてほしいと思っています。僕自身も生まれた時に、出産予定日より3ヶ月も早く生まれ、とても小さい赤ちゃんだったそうです。そのため、何ヶ月も入院し、小さい頃も風邪を引きやすく度々病院に行っていたそうです。

もし医療費が税金で賄われなくなったら、自分のお金で高い医療費を払わないといけなくなり、とても困ると思います。もしかしたら病院に行けなくなるかもしれません。

これから先も医療費が税金で賄えるようにするために、僕たち国民一人一人の心がけが重要になってくると思います。例えば、日頃から自分の健康状態を管理し、

ちょっとした体調不良の時は、市販薬などを使い、病気の予防や治療に役立てたり、かかりつけの病院を持つことや、診療時間内に受診すること、病院から処方された薬を正しく使うことで、医療費増加を抑えることにつながると思っています。

子供からお年寄りまで安心して健康で暮らせる国であってほしいと思います。

この社会あなたの税がいきている



★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉光陽高等学校

一年 時津 遥

「税金と私達の暮らし」

私たちが生きていく中で、必ず一度は聞くのが「税金」です。そのことについてよく知らなかったので調べてみました。

税金は、年金・医療などの社会保障・福祉や水道・道路などの、社会資本整備、教育・警察といった公的サービスを運営するための費用を賄うものだそうです。みなと共に寄り添いあえる社会を作っていくため、税金を広く公平に分かち合う事が社会をより良くするための第一歩になるのです。

税金には、三つの役割がありました。一つ目は、「資源配分の調整」です。これは、社会的には、供給されること

が望ましい財でありながら、市場メカニズムが十分に働い

たとしても市場（民間）では供給されない公共財を公的部門が供給することです。

二つ目に「所得の再配分」です。これは、租税や社会保障制度を通じて、各個人が得た所得の一部を配り直すことを言います。所得再配分によって所得格差を是正しようとするのが所得再配分政策です。たとえば、所得の高い人々だけに税負担を求めると、課税後の所得格差は、課税前よりも縮小します。

最後に「景気の安定化」です。これは、不況時には公共投資や減税を行い、インフレ時には金融引き締めを行うこととによって、景気の谷を浅く、また山を低くする政策です。そして、税金は、年金・医療・介護・子育てなどの公共

サービスに使われます。その他に災害の時にも使われていました。

福岡県の筑後川流域で大雨による洪水や、土砂災害（七年前の九州北部豪雨）が発生した時、土砂崩れが起こるほどの大きな災害が起こりました。そのような時に、使われるお金が税金です。災害から身を守ったり、被害を食い止めたり、災害が起きた時の復旧策などに多くの税金が使われています。例えば、災害時の緊急情報、町の防災無線、警察、消防、自衛隊の活動、自治体からの要請による土木業者等の作業など、これらすべてに税金が使われています。

あの災害の日、私の地域では被害がほとんどなくて、他の地域での土砂崩れの話から聞いたことはありましたが、あまり詳しい被害の大きさを知りませんでした。

光陽高校に入学してから、しばらくは知ることは

ありませんでしたが、黙祷をした時、杷木地域での大きな災害について教えてもらいました。

今の光陽高校の川や橋やバス停が、とてもきれいになっているのは、税金のおかげなのだと分かりました。住民税や所得税、そして、私にとって一番身近な消費税の事を「ちよつと高いかな」と思っていました。でも、そんな税金が、人々の生活や命を守る大切な物だということが分かりました。これからもっと、税金についてもっと知ってきたいし、働くようになったら税金を納めることができる社会人になっていきたいと思っています。



★朝倉市長賞

福岡県立 朝倉東高等学校

一年 小島 愛織

「税への偏見や見方を変える」

世界にも税金があり、その中でも面白い税金があるので紹介します。

・ポテトチップス税

ハンガリーで導入されている税で、国民の肥満防止を目的としています。課税の対象はポテトチップスだけでなく、ケーキやビスケット、スナック菓子や清涼飲料などの糖分や塩分を高い割合で含んだものも対象となります。

・脂肪税

世界初となる脂肪税を導入したのはデンマークです。二・三パーセント以上の飽和脂肪酸を含む食品、バターやチーズ、牛乳、肉類などを含む食品が課税の対象になっています。

・渋滞税

イギリスのロンドンで導入されている税金で、渋滞の緩和

や大気汚染の解消などを目的に導入されました。区域と時間を決め、決められた時間に決められた区域を走行する車に対して、税金を課するというものです。この渋滞税を導入することで、渋滞が三十パーセントも減少したそうです。日本にも珍しい税金があります。

・入浴税

鉱泉浴場に指定されている温泉に入浴する人に対して、鉱泉浴場所在の市町村が課する目的の税です。環境衛生施設や鉱泉源保管施設の整備、観光の振興費などに使われています。

そこで私も、こんな税があったらいいなと考えてみました。私は今、バドミントン部に所属しているのですが、体育館でスポーツをするのでシャトルが飛ばないように窓を全部閉め

なければいけません。そうすると、暑くて集中できず熱中症の人が増えてしまいます。だから、市町村に環境に配慮した大型の体育館を設置するための費用を税金で集めることを考えました。この施設を設置することで、室内の部活の人だけでなく、外の部活の人も室内で涼しくスポーツをしながら熱中症対策ができたり、部活だけに体育館を使うのではなく、どの世代の人でも気軽にスポーツをすることができ、地域のコミュニケーションの場として交流できたり、今問題とされている運動不足解消にもつながると考えました。

「税金」という言葉を聞くと、

マイナスなイメージをもつ人が多いと思うのですが、一つの考え方に捉われるのではなく、たくさんの方の視点から見ること、マイナスなことだけでなく、プラスのこともたくさん見つけることができます。税金はみんなが互いに支え合い、共により良い社会を作っていくた

め、広く公平に分かち合うものである、税金を払うことに不満を持つのではなく、私たちの身近なところでどういふ場面で使われていて、どういふ人に役に立っているのかを考えたりして少しでも税金に対する見方を変えてほしいです。

そして、この私の作文を読んだ税金に対するマイナスなイメージがプラスのイメージに変わったり、興味を持ったり、関心を持ってくれると嬉しいです。



中学生の優秀作文

★福岡県教育委員会賞

筑前町立 夜須中学校

三年 福村 矩理

「平和への道しるべ」

「税金って何だろう。」たぐさんの人にきいてみた。でも、返ってきた言葉は私の求めていた言葉ではない。みんな税金を「負担」と呼ぶ。私にはそれが分からない。私は税金に感謝をしている。「負担」と思ったことは、一度もない。税金があるから、崩れた道路を歩かなくてすむ。税金があるから、街中にごみから学校に通うことができる。新しいつながりができる。そのつながりがあるから、困ったときも迷ったときも前を向いて歩いて行ける。前を向いて歩いて行けるから、私は今ここにいます。私をずっと支えてくれた税

金。私はそれを「負担」とは呼ばない。私のまわりには税金に救われている人たちがたくさんいる。先生や友だち、地域の人、そして祖父母。

祖父母は熊本県に住んでいる。私は祖父母たちから熊本地震の話を知った。その時祖父母が足を痛めていて、逃げ遅れていたそうだ。そんな時駆けつけてくれたのは自衛隊だった。自衛隊の方々には祖父母に暖かく接してくれたそうだ。「自衛隊がなければ私たちは今生きていない。」と祖父母は口をそろえて言う。祖父母を救ってくれた自衛隊。自衛隊はボランティア団体ではない。税金の上に成り立っている。税金によって祖

父母は救われたのだ。

私はこの話を通して、税金のありがたみを実感した。税金を「負担」と呼ぶ人は、きっと税金のありがたみを実感していない人なのだろう。そんな人は「税金のない世界」を想像してみたい。いつもできていたはずの「当たり前」。それが突然「当たり前」ではなくなる。「当たり前」が「当たり前」にできなくなる。それが「当たり前」になる。あなたの考える「当たり前」。それも税金の上に成り立っている。この「税金のない世界」を想像することができれば、もう税金を「負担」と呼ぶことはできなくなるだろう。では税金を何と呼ぶのか。考えてみるのも悪くない。

「税金」と一言で表してもたぐさんの種類がある。消費税や所得税、法人税、事業税、関税など、誰でも知っているようなものもあれば、特別とん税、電源開発促進税、特別土地保有税などあまり有名ではないものもある。だが、これら全てに共

通していることは、自分たちの生活に役立っているということだ。自分が支払ってきた税金。それが知らない誰かを救う。その人が税金を支払う。それがまた誰かを救う。その人がまた税金を支払う。税金のループ。そして、笑顔のループ。いつしか自分のもとに返ってくる。未来の自分を救う。知らない誰かの笑顔を救う。人は皆、一人では生きられない。「誰かと支え合って生きている。その中心には「平和」がある。そこにたどり着くための道しるべ。それが税金。いつしか誰もが税金を「平和への道しるべ」と呼ぶ日がやって来る。そんな日が一日でも速く訪れることを私は願っている。



★福岡県 納税貯蓄組合連合会 会長賞

筑前町立 三輪中学校

二年 川波 柚花

「暮らしを支える税金」

皆さんは私たちの生活のほとんどの税金が使われていることを知っていますか。毎日通っている学校や友達との待ち合わせ場所にする公園、ゴミの収集や処理など他にも気づいていないだけで税金はいたるところに使われています。そんな暮らしに欠かすことのできない税金ですが国や地方に集められ、私たちの生活に役立てられるまでの仕組みはあまり知られていません。そのため大まかに三段階に分けて説明しようと思います。

まず、最初に私たちが買い物をする事でかかる消費税や家族が働いて稼ぐことにかかる所得税などによって国や地方に税金が集まります。このとき一年間で国に集まる税金は約六十兆円とされていて、大きすぎて想像できない金額ですが、例える

と三千円の洋服が二百億着買える額になっています。

次に、こうして集められた税金の使い道を国会やそれぞれの地方で選挙によって選ばれた政治家たちが話し合いで決めていきます。このときに大切な税金がより良い使い方をしてもらえようになりと考え選挙に参加することが大切だと思います。そうして使い道の決まった税金は学校の学習用品や普段から使っている道路の整備などに使われるという仕組みになっているのです。

このように「集める、話し合う、役立てる」の三段階でできた税金の仕組みですが、もしも税金が世界からなくなってしまうたら自分の生活が今とはどれだけ変わるか想像できますか。例えば中学生の平日の暮らしで考えてみると、まず学校に行くまでの通学路や校門を通ることにも通行費がかかるようになり、そのあとに受ける授業やその授業で使う教科書にもたくさんのお金がかかることになります。それに加えて図書館を利用する学生は本を借りるのにもお金が必要になり、もしも返すのが遅れてしまうとその分の料金もかかるかもしれません。このように中学生の一日だけでも税金がなくなると今とはガラッと変わった生活になるので、本当に税金がなくなってしまうと

たくさんの人が不慣れた生活を送ることが分かります。

私はこの作文を通して税金の仕組みや種類、税金がなくなるのと私たちの暮らしがどう変わるのかなどを考えることができました。大切なのは私たちが税金について正しく知り、消極的なイメージをなくしていくことだと思います。そのためにも、私は税金についてよく調べ、周りの人たちに大切なお金という事が伝えられるようになっていきたいです。

★甘木税務署長賞

朝倉市立 甘木中学校

三年 井上 愛結

「税金がなくなってしまうたら・・・」

私たちの暮らしの中では、税金というものが使われています。税金とは、国や都道府県、市町村などの地方公共団体に納めるお金のことです。みなさんも買い物すると「消費税」を払

います。この「消費税」も税金の一つです。税金は約50種類もあります。所得税、たばこ税、法人税、事業税聞いたことはあるが、あまり詳しくはわからない税もあります。私は、なぜこ

んな多くの税があるのだろうかと思議に思いました。

もし、税金がなくなったら、私たちの日常生活はどうなるでしょうか。税金がなくなると、たとえば、今は救急車を呼べば無料で病院に運んでもらえるけど、お金を払わないと運んでもらえない。学校に行くとき毎日通る道路の信号もついていないし、道もポロポロ。ごみの収集者が来なくて、町中ゴミだらけ。交通事故にあつたり、地震や台風の影響にあつても、助けてもらうサービスはすべて有料なんてことになってしまふかも。税金がないとこのような当たり前に利用している公共サービスがなくなつてしまいます。税金は、私たちのサポートをしてくれることを知りました。以前に私の家族が病気の治療を受けるための手術をしました。手術代はかなり多いと聞いていましたが皆さんの税金のおかげで命を救うことができたんだと思ひました。税金はマイナスばかりではないことを知りました。

私は税金について調べたことで、社会において税金がどのような役割を担っているかを深く理解することができました。税金は、公共サービスや社会保障制度の維持・充実に欠かせないものであり、私たちが快適な生活を送るために必要不可欠なものであると考えます。

私たちは、税金を納めることによって社会に貢献していることを自覚する必要があると思います。また、納めた税金がどのように使われているかを知ること、社会が抱える課題に対してどのような取り組みがされているかを理解することができきます。そして、自分自身もより良い社会を実現するために、納税をすることが重要であると感じました。私は今回の調査を通して、税金が社会に果たす役割やその仕組みについて深く理解することができました。今後は、税金を納めることの重要性を再確認し、社会に貢献するために努力していきたいと思ひます。

★甘木税務署長賞

朝倉市立 杷木中学校
三年 養父 彩予

「税とともに未来へ」

税金は国民が支払う義務。私

たちは、当たり前のように税金を支払っているが、何に使われ私たちの日常生活とどのように関わっているのだろうか。税金は、およそ五十種類もある。税金は、高いと思う人が多いが国民は、誰もが税の恩恵を受けていると思う。私が税を意識するのは消費税を払う時くらいだが、それでも通学路や学校の整備、教材や実験道具、町の図書館など身の回りには享受しているものが多いことを実感している。これらは納税の仕組みが整っているからこそ活用できるが、人は税による恩恵を当然のように受け入れ、その目的や役割よりも負担感に視点を向けているのではないだろうか。もしも、税金が無くなったら私たちの生活にどう支障が生じるのか考えて

みることにした。

例えば怪我をして救急車を呼ばないといけない状況になった時、日本では救急車の利用者は費用の負担がなく無料で利用できる。しかし欧米の大半の国は、救急車は有料なのが一般的だ。また、出勤一回につき最低でも五万円はかかるそうだ。決して安くはない料金が請求される。もし日本でも有料化になった場合、経済的に困難な人々が費用を理由に救急車の利用をためらう可能性がある。これにより、病気やけがが重症化するリスクが高くなる。今、税金により救急車の費用を気にせずに利用できることは、決して当たり前ではないことがわかる。だが、日本ではイタズラ電話や間違え電話などが全体の三割を超えていることが問題となっている。本

当に助けてほしい人が助からない状況になりかねない。私も以前、祖母が倒れた時に利用した。不安や焦りの中救急車が来たときは安心感でいっぱいだった。無事祖母は、一命を取り留めた。救急車の存在が祖母の命と家族の笑顔を守ってくれた。だからこそ、助かることができる命のために利用の仕方を考えていく必要があると思った。

この税の作文を書くにあたっていかに税金が私たちの命や生活・笑顔を守ってくれていると感じた。当たり前のように過ごしている日常も税金がなかったら今、幸せに暮らすことができているかもしれない。こ

れから大人になるにつれて税金に多く関わるようになる私たちは「社会と人を繋ぐ」「現在と未来を繋ぐ」税の大切な役割を担っている。今の私たちも、少しでも教材や施設を大切に使用したり、ゴミの量を減らしたりするなど貴重な税を大切に使うことには協力できる。今後、少子高齢化が更に進み、税を納める人は減る一方で福祉や医療に使う税金は増えると思う。今、身近にある課題は将来の自分に関わると自覚を持ちつつ、税の目的や使い方を学んでいきたい。そして、いずれ私たちが働き手となった時、納税の意義や目的をきちんと理解していこうと思う。

★福岡県久留米県税事務所長賞

朝倉市立 甘木中学校
三年 秋永 茉莉愛

「税金でつなぐ未来」

近年の日本の出生率は減少していく一方であり少子化という問題は聞き慣れた環境に

あります。それにもなっ
て教員の数も一九八二年の約四十七万五〇〇〇人が最多で

二〇〇〇年にかけて減少し、以降は微増もしくは横ばいという現状です。その中で、私達は生まれ、健やかに育つことが出来、就学し、最初に配られ手にする「教科書」は文教及び科学振興費として充てられています。

私が生まれた二〇一〇年は消費税五%でしたが現在は十%に引き上げられており、物価高の問題もよくニュースなどで取り上げられているのを目にします。

日本の小中学校では、一人一人に教科書が無償で渡され、どんな環境であっても、みんな平等に自分の目標、将来のために一生懸命に勉強をしている。

近年の日本では、税金に対して不満を示す人も多いと思う。

税金はなくなればいいなどと思う人もいるだろう。

本当にそれでいいのだろうか、自分が納めた税金の用途を知らず当たり前だと思っ

てはいないだろうか、そう認知している人がいるのなら、少しでも視野を広げてほしい。義務教育を受けている私たちだけではなく、現代社会で働く大人たちも、顔も知らない誰かの納めた税金によって義務教育を受けて育ち、日本の様々な公的サービスのおかげで、今の自分があること、有難みを感じるべきだと思います。

少子高齢化や物価高は日本だけの問題ではなく世界全体での問題であり、日本は世界の中でも物価や消費税が高いですが、その税金は支援を必要としている人や私たちの使っている教科書などに使われており、理由があつて税金が上がっているのを理解し、税金が無駄だと思う人が少しでも少なくなることを願っています。

みなさんも税金がどのように使われているのかを調べてみてください。

税金が高い国はハンガリー

で二十七%、スウェーデン・デンマークなどで二十五%など、日本より税金が高い国はどれも日本の比にならないほどでした。

税制ができた歴史、社会的、政治的な背景を理解し、税に対する印象や考えを改め、私

自身も大人になったら無償の教科書によって得た知識や培われた思考力が豊かで優しい未来につながる為に、納税につとめ、未来の日本のために、社会のために税金を使いたいと思う。

★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

朝倉市立 秋月中学校
三年 舟木 雪晶

「税金は暮らしを支える大きな根っこ」

みなさんは、「税金」と聞いてどんなことを考えますか。国のために払うお金、生活していたらいつの間にか払っているお金、商品を買うときに毎回考えなければならぬお金、私はそんなことをイメージします。この作文を書くまでは、税金は必要だけど払うのは嫌だと思っていたし、たくさん種類の種類があつて私たちの生活と関わっているということしか知りませんでした。

まず、税金の使われ方について調べてみました。私たちの生活に特に関係のある教育費は、小学生が年間で九十万円以上、中学生になると百万円を超え、高校生になるともっと多い額となっていることが分かりました。そして、私たち中学生一人に使われている税金は月に約八万八千円もあります。また、税金は快適な生活を維持するためにも使われています。警察署や消防署、

ゴミ収集まで、税金に支えられています。災害が起きた時は人命救助や復興にも使われています。税の種類の中には、「復興特別所得税」というて東日本大震災からの復興に必要な財源の確保のために、二〇一三年から二十五年間、所得税の二・一パーセントがかかるものもあります。このように、税金は、私たちの暮らしをより安全で快適にしてくれるものなのです。

次に、消費税について考えてみました。この税は、商品を買ったときやサービスを受けたときにかかるお金で、誰もが払ったことのお金であると思います。これらの消費税は、年金や医療、介護や子ども・子育て支援といった「社会保障四経費」というものに使われるそうです。また、消費税のうち、七・八パーセントは国にいきませんが残りは社会保障や地域のために使われるそうです。今の日本は少子高齢化が進んでおり、現在の

六十五歳以上の総人口に占める割合は、二十五パーセント以上となっています。それに加え、二〇五〇年では一人の高齢者に対して、働き手は約一・三人になってしまうと予想されています。ここから消費税を上げるか上げないかが問題となっている理由もわかってきます。しかし、税金が必要とされていることは変わりません。それは今後、生活を豊かにするための鍵となるでしょう。

私は、今回「税金」ということについて考えてみて、「税金」は私たちの生活に欠かせないものだということを知ることができました。そして、これらは国民全員が支え合い、共によりよい社会を築いていこうという思いが必要だと感じました。これからは、物事の一つ一つのありがたみを感じながら生きていこうと思います。

★公益社団法人 甘木朝倉法人会会長賞

朝倉市立 南陵中学校

三年 渡辺 加彬

「税金がある意味を考え直して」

近年、消費税や物価が高く なっています。その理由の一つとして少子高齢化が大きく関係していると思います。税金は、公共サービスの活動に賄われていて私たちの生活を支えています。消費税が日本より高い国がある一方、消費税がない国もある中で、日本は特に少子高齢化が進んでいます。少子高齢化はさらに進むといわれていますが、その影響や対策が税金にどう関係しているかを考えます。

少子高齢化とは、働く人が少なくなること、税金を納める額が大きくなるのが問題です。もし、たくさんの人が働いていたら、みんなが税金を少しづつ納めれば良いけど、今の日本は納める人が少ないから一人分が納める額が大きくなる。

そうならないために、子どもを増やしたり、働く年齢を上げたり、国民がたくさんお金を使ったりすることが対策だと思えます。そのために、大人が安心して子育てができる環境をつくったり、高齢者が少しでも多く働いて税金を納める人を増やすことで一人分の税金を納める額が減ったりすると思えます。また、国は多額の借金をしているらしいけど、そのことを聞いて私は「お金を増やせばいい」と思っていました。しかし、札束をたくさん増やすことでお金の価値がなくなると、ただの紙切れになるということを保護者に教わりました。国の借金は、国民も払わなければいけないから、結局はお金をたくさん使うことで消費税として税を納められると思います。

その他に年金と少子高齢化の関係について考えます。年金は高齢者がもらえるお金で、年金を納めるのが労働者だから、自分が年金として納めて、時期が変わるだけで自分が納めた分の額でしかもらえません。自分のために年金を払うということになります。自分が年をとった時にその時代に働いている人からもらうことがわかりました。

私は、税金の使い方をもう一度確認して、平等な社会であるべきだと思います。たくさん働いているのに給料が安い人もいれば、逆にとても給料が高い人もおり、私は格差が大きすぎると思います。そういう格差を少しでも減らすために、税

金の使い方を確認して少しずつ平等になってほしいです。

私は、小さい頃から児童養護施設で生活しています。当たり前のように生活できているのはすべて税金があるおかげだと知りました。そのため、税金による恩恵を受けていることも多いと思います。だからこそ今できることは、たくさんものを買って消費税として税金を納め、大人になって税金を納められるようになったら、税金の正しい使い方や納め方をきちんと知って、いい形で税金を納めたいです。税金の意味について調べてみて、こんなにもたくさんの方があるのだとわかりました。

★朝倉市長賞

朝倉市立 比良松中学校

三年 岩方 優

「税金と私たちの暮らし」

皆さんは、税金について知っていますか。普段あまり意識

することがないかもしれませんが、税金は私達の生活に深く関わっています。

まず、税金とは何か理解することが重要です。税金とは、国や地方自治体が私達から集めるお金のことで、主に公共サービスの提供や社会福祉のために使われます。例えば、学校や図書館、公園、道路、病気など、多くの公共施設やサービスは税金によって支えられています。私達が安心して生活できる環境を整えるためには、税金の存在が欠かせません。

税金にはさまざまな種類があります。最も身近なものとしては、消費税があります。これは、物を買ったりサービスを利用したりする際に支払う税金です。他にも、所得税や住民税、法人税、相続税など、いろいろな税金があります。それぞれの税金は異なる目的や方法で集められ、使われ方も異なります。税金を納めることには、いくつかの損と得が考えられます。まず税金を納めることによって得ら

れる利点としては、公共サービスが挙げられます。税金のおかげで私たちは教育や医療、交通など様々なサービスを受けることができています。一方で、税金を納めることには負担もあります。しかし、その負担は私達の生活を豊かにするためのものと考えられます。税金が適切に使われることで、将来的にはより良い社会を築くことができます。

私達中学生にとって、税金に関してできることは何でしょうか。まずは、税金について学ぶことが大切です。税金がどのような種類があるのか、どのように使われているのか、どのよう私達がどのように社会に貢献できるのかを考えるきっかけになります。また、家族や友達と税金について話し合うことも良いと思います。意見を共有し合うことで、より理解することができます。さらに、学校で行われる社会科の授業や特別授業を活用して、税金について学ぶ機会を増やして、インターネットや

図書館を利用して、自分で調べるなどしていききたいです。

現代の日本社会における税金の役割や課題について、自分の意見を持つことが大切です。税金は私達の生活を支える重要な要素であり、私達一人一人が理解し、関心を持つべき

テーマです。私たち中学生も税金について学び、自分達の将来に向けてどのような社会を目指すかを考えていきたいです。税金の知識を深めることで、より良い社会づくりに貢献できると思います。

★筑前町長賞

筑前町立 三輪中学校
一年 米倉 綺優

「税金」

みなさんは、「税金」と聞いてどんな印象を持っていますか。私はあまり良い印象を持っていませんでした。

なぜなら、よくニュースで取り上げられる「税金が高くなつて困る」という大人の声をよく耳にするからです。

そこで、「なぜ税金が高くなるのか」や、「税金は何のためにあるのか」をくわしく調べてみることにしました。

すると、私たち生徒の教科書

などの費用に使われているだけでなく、社会の問題を解決するためにも税金が使われていると分かりました。

それは日本だけでなく、海外にもそのような税金制度があると知りました。

一つは目は、アメリカの「ソーダ税」です。最初に導入されたのは二〇一五年アメリカのカリフォルニア州のバークレーです。世界での課題となつている肥満や糖尿病の問題の対策として、

清涼飲料水に税が課されました。その結果、水や水道水の消費量が六十四パーセント増加しました。違う地区で買う人は、わずか二十パーセントで人々は健康的な食習慣を促すことができたそうです。私は日本にもあったらいいのと思いました。

二つ目は、ニュージーランドの「家畜ゲップ税」です。牛や羊などのゲップは大気を汚染し地球温暖化を進めるためつくられたそうです。

三つ目は、ブルガリアの「独身税」です。今は廃止されていますが、ブルガリアでは少子化問題の対策として制定されていたそうです。独身者の収入の五パーセントから十パーセントを税金として徴収していました。少子化が進む日本も制定されるいいなと思いました。

もし、私が税を制定できるのであれば、スマホ税を導入します。日本は先進国の中でも睡眠時間が短いです。スマホ税は夜更かしを防止することにもつながり、健康面や学習面などに

も良い影響が出ると思うからです。また、スマホでのSNSのトラブルが減ることにも効果的だと思ふからです。私たち学生や社会人の方など、学習や仕事で便利なため使用する人は多いと思うので、ゲームアプリなどの使用時間の制限のために課税すると良いと考えました。

このように、世界の税金制度を見たり、税金についてよく調べてみると社会問題を解決するためにもあるということが分かりました。どんな税金制度があったら良いのかなど、もともと日本や世界の課題を知って考えていきたいと思ひました。



「私たちの暮らした税金」

★東峰村長賞

東峰村立 東峰学園
九年 肥後 桃子

私たちの暮らした税金は私たちが納めている「税金」で成り立っている。その例として挙げられるのが公共サービスだ。国が行っている公共サービスをいくつか挙げてみよう。道路の整備や警察による治安維持、一般的なゴミ収集など様々だ。これらの公共サービスを行うために必要な費用である税金が私たちの暮らしの中でどのような役割をはたしているのか考えてみることにした。

日本の一般会計予算は、約112兆1千億円である。このうち、社会保障とは「社会保障」「公的扶助」「保健医療・公衆衛生」の4つの柱で構成されている、国民の安心や生活の安定を支えるセーフティネットのことである。そし

て「国民の生活の安定が損なわれた場合に、国民に健やかで安心できる生活を保障することを目的として、公的責任で生活を支える給付を行うもの」と定義されている。具体例として年金や児童手当などがあり、実際にこれらの例は日本の人口の半分以上の人に利用されている。しかし社会保障にはこのようなメリットがある中、デメリットもある。それは、家族形態・地域基盤の変化や貧困・格差の問題だ。私たちはこのような事実を受け止め、国に税金を納めていかなければならない。

日本には、およそ50種類の税金が存在している。「どこに納めるか」「何に税金をかけるのか」「誰が税金を負担するのか」、「税金の使いみちは決

まっているのか」により税金を分けることができる。主な税金は消費税、所得税、法人税だ。消費税は消費者が負担し事業者が納付する商品・製品の販売やサービスの提供などの取引に対して広く公平に課税される税だ。年間の所得に対してかかる「所得税」は、所得と税額を計算して申告・納付することを原則としている。法人税は従業員や経営者、株主、債権者、消費者などが負担し、事業所を置く都道府県及び市町村に対して納付する税だ。これら3つの税金は国の税収の中でも重要とされている。

私たち中学生にとって税金は関係のないものと思うかもしれない。しかし、これらの自分たちの次の世代の暮らしのために、税金について知って考えることは大切だと私は感じた。

税の標語

全国間税会総連合会 入選

税金も 人と同じで いきている

朝倉市立 十文字中学校 二年 武田 千穂

税金は みんなのために 未来のために

朝倉市立 十文字中学校 二年 平田 ゆい

買い物で 知らない間に 人助け

筑前町立 夜須中学校 一年 平嶋 紬

税金は 暮らしの中に いつもある

筑前町立 夜須中学校 一年 楠田 恵人

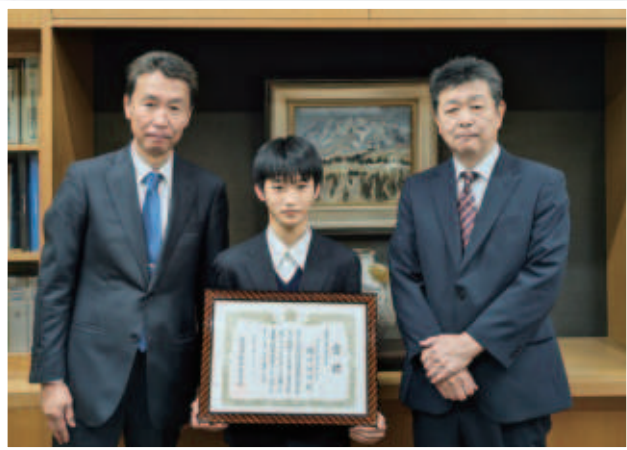
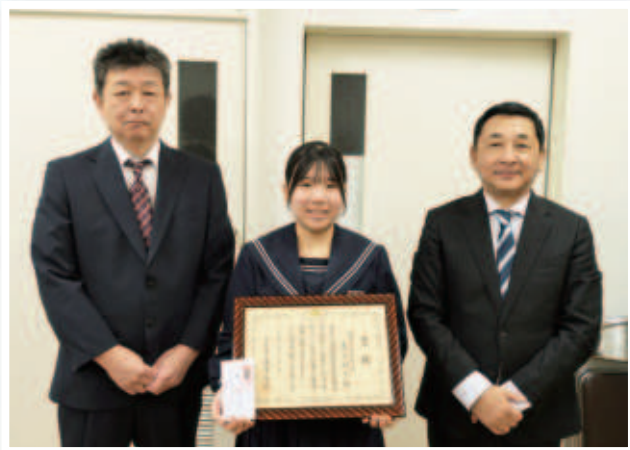
助け合う 世の中築く 消費税

筑前町立 三輪中学校 二年 徳永 歩美

甘木朝倉間税会が募集した「税の標語」です。本年度は管内中学校9校から2,660点の応募がありました。

租税教育活動を やっています

甘木朝倉地区税務連絡協議会では、構成団体が協力し、税知識の向上及び納税意識の高揚を目的にさまざまな活動をおこなっております。



甘木朝倉地区
税務連絡協議会とは？

★構成団体は？

- ・ 公益社団法人
甘木朝倉法人会
- ・ 朝倉地区
税務相談所運営協議会
- ・ 甘木朝倉間税会
- ・ 甘木税務署管内
酒類業懇話会
- ・ 九州北部税理士会
甘木支部

★何をしている団体ですか？

- ・ 一般の方々の税知識や納税道義の向上を目的とした様々な活動を行っています。
- ・ 中学生や高校生の税に関する優秀な作文を表彰する等して、租税教育の支援をおこなっています。